



公害汚染都市から 現在の取り組みまで

第三十一回研修交流会

二月二十四日十時から、小倉リーセントホテルで第三十一回「さわやかボランティア研修交流会」が開催されました。第一部講演会は、北九州市の公害克服の歴史から現在の取り組み」と題して、北九州市環境ミュージアム 安枝 裕司 次長のお話がありました。以下、安枝次長の講演の内容を紹介いたします。

安枝次長の講演は、プロジエクターを使ってされました。日本の食料の自給率は40%で、約60%が輸入に頼っています。このことは、食物を運ぶエネルギー（重油や人など）がいりません。また、エネルギーの損失は、運搬する距離×量に比例して大きくなります。食料の自給率が低いと言う事は、多くのエネルギーを損失していることとなります。食物の輸入だけでも、多くのエネルギーを使用することになり、地球環境に大きな影響を与えます。

一九〇一年官営の八幡製鉄所が造られ、今日に至っています。この製鉄所を初めてとして、北九州市は繁栄して来ましたが、昭和三七年度の北九州市の観光絵葉書を見ると、七色の煙突を写し、繁栄のシンボルにして

ています。

電柱に「つらら」が下がっています。これは煤塵や煤煙の「つらら」で水ではありません。如何に大気汚染が酷いか、一目瞭然です。公害喘息の患



環境ミュージアム
安枝 裕司 次長

者も日本一多かった地区でした。船のスクリューも、海の汚染により、プロペラが溶けています。

このころの住民運動は、企業に対して裁判が行なわれていたのが普通でした。北九州では、企業相手の裁判はせずに、自治体に対し、運動をしたのです。市民が環境モニタリングを行ない、環境インフラを整備したのです。この運

代替講習で関係法令を講義



山田理事長が講師

二月十八日にウエルとばたで行われた、代替講習の「関係法令等に関する講義」に、山田理事長が講師として三十分間の講義を担当しました。

冒頭、ボランティア活動をするために、何度も研修を受けなければならぬ現在の状況を、事業者側として心苦しく思う旨を語り、講義に入りました。

講義は、福祉有償運送に関連する条項を中心に進められ、取っ付きにくく難解な法令文を、大変解り易く解説して受講者から好評を得ました。

人財の育成が課題

このようにして、北九州市の環境は、世界から注目を集める、公害克服の都として今日に至ります。

動は、一九六五年(昭四〇)に、婦人会を中心に始まりました。北九州市では、市民、自治体、企業がパートナーシップを作り、全市を挙げて公害問題に取り組んだのが、他の市町村との大きな違いです。このようなかで、市民環境行動原則を打ち出しました。社会的側面、経済的側面、環境的側面の三つが総合して、始めて環境行動原則が出来上がったのです。

八幡東区東田地区「シャイン構想」

将来の展望として、「SHINE」構想があります。Science (科学)、Human History (歴史)、Industry (産業)、Natural History (自然科学)、Environment (環境)の頭文字をとって、「SHINE」シャイン構想と言います。この構想は、八幡東区東田地区にグリーン・ビレッジ構築事業として、現在進行中です。環境ミュージアムをはじめ、科学では、スペース・ワールド、自然史は各種博物館、住居も建設中。大型商業店として、イオン、ベスト電器があります。将来は、電気を新日鉄から供給してもらう。(現在も一部では、行なわれている)東田地区占有の車の所有(カー・シェアリング)、バイオトープ計画Ⅱ人工的に自然空間を作る。展示開設員Ⅱインター・プリターや環境サポーターの養成。「環境パスポート事業」で、エコ・パッパクやポイント制の導入も計画されています。

北九州市は、教育特区を取得している。平尾台に九州自然学園「ひらおだい四季ヶ丘小学校」を開校して、特別な教育に取り組んでいます。以上が講演の概略です。質疑応答では活発な質問が出されました。

第31回ボランティア研修交流会

熱気溢れる

研修交流会

小倉事業所ボランティア
栗本 裕

今回久しぶりにボランティア研修交流会に参加させていただきました。二月下旬で外は少し肌寒い季節でしたが、会場内は五十〜六十人の意見が飛び交う熱気溢れる研修会の雰囲気でした。研修会は二部構成で行われました。各部の感想を簡単ですが報告させていただきます。

第一部はテーマ「北九州市の公害克服の歴史から現在の取り組み」講師北九州市環境ミュージアム次長・安枝裕司氏。

講義内容は北九州市が公害の街からどのようにして現在のようになっている模範となりうる北九州市になったのか？その変遷と現在の取り組みについて約二時間お話いただきました。



環境問題に関心が高く熱心に聞き入っていました



最優秀演技賞、おめでとうございます
賞品？罰ゲーム？デカ過ぎでしょう！

北九州博覧会で私は環境ミュージアムで環境ボランティアとして参加しており、環境には少しうるさいと自負がありましたが、なんと参加者皆さんの環境意識の高さは凄いなものでした。講義が終了し、普通であればここで、拍手で終わりカナアと思いましたが、司会者の質問のある方と発するや否や質問攻めの嵐ではありませんか。団塊の世代の方々が大半でしたが、こんなに環境に関心があり知識も豊富に持ち、そして「さわやか」の活動だけでなく他のボランティア活動も積極的に参加されておられるとの事。第二の人生をボランティア活動にパワー全開で取り組んでおられる姿を拝見でき、刺激されそして実りある時間でした。人生の先輩達に脱帽。ペコリ。「さわやか」の前途は揚々だなくと思いつながら第一部へと流れていきました。



初めて参加して

小倉事業所ボランティア

松岡 智恵子

初めて参加した「ボランティア研修交流会」は、環境問題に関する講演でした。今、何が出来るか？私がやっている事はゴミ分別とエコバッグ。まだやれる事を見つけて地球のために考えていきたいと思っています。

午後からは、ボランティアさん達と食事とゲームをして楽しい1日でした。また参加したいと思います。ありがとうございました。

《第二部は楽しい意見交流会》
「さわやか」の開設当初はよく参加させて頂きましたが、今回は久々の参加で江頭相談役や事務局の方々にお会いするのが大変楽しかったです。本当に今までの皆さんの苦労が少しづつ果実になりました。この感じがしております。今後もボランティア確保は厳しいものがあると思いますが、一歩一歩足跡を残しながらの活動を期待しております。

第二部は、アルコールの影響もあり意見交流の花が咲き乱れました。事務局の方々のゲームで辛子入りシユークリーム当てゲームやビー球重さ当てゲームなど楽しい企画盛りだくさんで皆さんと一緒に楽しい時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。

ハンドキャッチャー
ガッチリつかみましょう



↑ ここが我慢の
しどろろゲーム
カラシ食べるのは誰？

うございました。追伸、今回参加できなかったボランティアの方は是非次回参加されてください。楽しいひと時をみなさんと一緒に。